

2014年第9回全国大学日本語教師研修会の実施報告

日程： 2014年7月18日～7月21日
会場： 中国遼寧省国航大廈ホテル（大連市）
主催： 中国教育部ネット研修センター
国際交流基金北京日本文化センター
中国教育部高等教育出版社
協力： 中国日語教学研究会
教育部大学外語教学指導委員会
後援： 在瀋陽日本国総領事館大連出張駐在官事務所
参加者： 全国の大学日本語教師 147名



研修目的

- (1) 日本語教育研究の動向を紹介する。
- (2) 日本語教授法、実践について考え、議論する場を提供する。
- (3) 文化に関する情報提供、または研修参加者による情報交流を促進する。

以上の目的のもと、「日本語教育研究と実践を結ぶ研修」を表題に実施し、毎年テーマを変えていますが、今年度のテーマは「シラバス—学習目標と評価」でした。

教育部大学外国語文学类专业教学指导委员会で国家スタンダードが制定され、来年度以降、各言語ごとに大綱シラバスが改訂されるということで、今年度は国家スタンダード及びシラバスに関し、現場の教師が理解を深める場として、また議論する場として設定しました。

研修会概要

①国家スタンダードの制定から見る日本語専攻のシラバス改革

講師：修 剛 先生

教育部外国語文学类专业教学指导委员会副主任 天津外国語大学学長

2014年中に制定予定の国家スタンダードの進捗状況と一部の内容、及び今後の計画を公表し、それに基づき来年改訂される日本語専攻の大綱についての枠組みを話されました。

国家スタンダードの制定に関しては初めて詳細を聞く参加者も多く、大綱改訂に先立って、教育現場が考えなければならない課題を考える機会となりました。

②授業計画と学習評価

講師：伊東佑郎先生

日本語教育学会会長、東京外国語大学留学生日本語教育センター長

コースデザインとは、授業計画とは何か、スタンダードとは何か、これからの学習評価の在り方について、東京外国語大学留学生日本語教育センターのスタンダード及びJF日本語教育スタンダードを例に、Can-do Statementsと評価について詳しく紹介されました。



修剛先生



伊東佑郎先生

③「大学日本語教学要求」と大学日本語

講師：趙華敏先生

大学外語教学指導委員会副主任 北京大学外国語学院副院長

大学で第二外国語として日本語を学ぶ学生の多様化しているタイプ、教材、四六級試を整理し、大学生の日本語教育と素質教育に関して目標とするところを話されました。

④Why What How能力を養成する－課程教学要求と応用

講師：林 洪先生

北京師範大学外文学院副院長 日語教育教学研究所有長

教育学理論を枠組みとして、現場で養成すべき大学生の能力について整理されました。また、学生が自主学習能力を身につけるために教師がすべきことについて現場の視点で話されました。



趙華敏先生



林 洪先生

⑤パネルディスカッション「シラバスー学習目標と評価」

モデレーター：徐一平先生

中国日語教学研究会会長 北京日本学研究中心主任

上記①～④の講師をパネラーに迎え、午前中の①②の講義後のグループディスカッションで出された質問事項への回答を挟みながら、フロアからの質問を受けつつ、パネルが進行されました。多角的視点で「国家スタンダード」「大綱改訂」を捉えることができ、今後、教育現場が対応していかなければならない課題をそれぞれに考えることができました。



⑥ コースの目標、授業の目標－JF日本語教育スタンダードワークショップ

講師：松浦とも子・柳坪幸佳・鈴木今日子

北京日本文化センター日本語教育専門家

3クラスに分かれ、JF日本語教育スタンダードを紹介しつつ、言語行動とは何かを

考えるワークショップを通して、Can-do表記に関して理解を深め、自分たちでCan-do Statementを作る作業を経験しました。このワークショップを通して、後の「総合日本語ワークショップ」でコース目標を立てる際、言語行動目標を意識してもらいたいという狙いがありました。

⑦ 総合日本語ワークショップ

ファシリテーター：松浦とも子・柳坪幸佳・鈴木今日子

北京日本文化センター日本語教育専門家

上記⑥同様、3クラスに分かれ、さらに小グループごとに作業をした。中国の大学でよく使用されている総合日本語の教科書『新編日本語』『総合日本語』『基礎日本語』の3種を教えると仮定して、2年生前期のコースシラバスを立て、それに基づき2時間分の教案を作成しました。言語行動目標を意識し、評価にも注目しつつ、4技能のバランスを考える中で、主幹科目である総合日本語をどう捉えるべきなのか、討論が活発に展開されていました。



⑧ 私の日本語教育研究

発表者：尹松先生 華東師範大学



日本語教育研究の推進を目的に、例年、2、3名の発表者に依頼していますが、今年は、お茶の水女子大で日本語教育の博士学位を取得し、華東師範大で教鞭をとられている尹松氏が、「日本語学を専門とする教師の研究意識について—PAC分析による事例研究」及び「発音改善におけるシャドーイングの有効性—聴覚評価と音声分析ソフトの分析から」という2つのテーマで各30分ずつの発表(質疑応答含む)をされました。研究方法の紹介も丁寧で、フロアに音声を専門とする参加者もいて、質疑応答も活発で好評でした。

⑨ 総合日本語ワークショップ発表、総括

発表者：各クラス代表者

総括：北京師範大学

提出されたコースシラバスと教案から、北京日本文化センター専門家と林洪先生が4点代表グループを選抜し、その紹介とワークショップを通しての気づきを発表するように依頼しました。いずれも理念が明確で、言語行動を意識したコースシラバスになっており、ワークショップでの気づきも深い内容が語られました。各代表者の発表後、そのクラスの担当者から、当該教案が選ばれた理由を補足しました。

最後の40分間、林洪先生がワークショップの総括として、現場での授業の考え方について、まとめられました。林洪氏の学習者主体の授業の考え方に多くの若い教師が賛同し、励まされている様子でした。

総合日本語ワークショップ詳細

本日(8月20日)午前中の作業

- ①4人一組でコースシラバスを作る。(18週)
言語行動目標を明確に考える。
 - ②1回(20時間)分の授業デザインを考える。
シート記入(日本語で)
 1. 教学背景分析
 2. 教学目标
 3. 整体设计思路, 指导依据说明
 4. 教学重点, 难点分析
 5. 教学过程设计
 6. 教学评价设计
- 午後2:00までに提出
①は必ず!
②は主要部分でよい
①と②の整合性を重視

本日(8月20日)午後の作業

- ①14:00-14:40
2グループで自分のコースと教案を紹介しあう。
15分×2
- ②14:40-15:00
他グループの質問を受けて改良。
- ③15:00-15:30
ふり返りとまとめ

午後3:00までに提出

今年は教育部外国語文学类专业教学指导委员会、「国家课程标准」を制定し、来年にはそれに基づき各言語ごとにシラバスを改訂するというので、「シラバス—学習目標と評価」をテーマに、中心となる柱をパネルディスカッションとコースデザインワークショップの2つに絞って研修を行いました。国のシラバスという、現場の教師とていわば「雲の上の話」を、教師一人一人の問題に引きつけ、実際の授業につなげて考えることができたのではないかと思います。

時間	内容		備考
18日(金)			
14:00-17:00	登録		
19日(土)			
8:00-8:30	開幕式(記念写真)		「課程教学要求と 応用-教学目標と 学習評価」 4名のパネラーに1 時間ずつお話し いただく。
8:40-9:40	修剛先生ご講演		
(休憩10分)			
9:50-10:50	伊東先生ご講演		
(休憩10分)			
11:00-11:30	グループディスカッション	修先生、伊東先生のご講演を聞いて、グループで質問を一つ書く	
11:30-13:30	昼食、休憩		
13:30-14:30	趙華敏先生ご講演		
(休憩10分)			
14:40-15:40	林洪先生ご講演		
15:50-17:00	パネルディスカッション 徐一平先生モデレーター 修先生 趙先生 伊東先生 林先生 フロア 尹松先生 参加者		先のお話をもとに、 フロアとの討論。 シート2参照
18:00-19:30	懇親会		
20日(日)			
8:30-10:15	JF日本語教育スタンダード・ワークショップ	北京日本文化センター 日本語教育専門家	3部屋
(休憩15分)			
10:30-12:00	総合日語ワークショップ	①②	コースシラバスを 作る
12:00-14:00	昼食、休憩		
14:00-15:30	総合日語ワークショップ	③④	シェア
15:45-17:00	全体ディスカッション 基金紹介、高教社紹介		発表者決定、通知
21日(月)			
8:30-9:40	私の日本語教育研究	尹松先生 (60分質問10分)	
10:00-11:30	総合日語WS 講評	発表2組(1組20分質問10分)	発表
11:30-13:30	昼食、休憩		
13:30-15:00	総合日語WS 講評	発表2組(1組20分質問10分)	
15:10-16:10	全体総括		
16:10-17:00	修了式		

研修参加者の声

事後アンケートより (一部抜粋)

- ・本当にいい体験でした、いろいろなことを勉強しました。JLC、JFスタンダード、Can-doなどの新しい理念が印象的でした。ワークショップで協働学習や共同作業などを体験できて、すごくいいチャンスだと思います。
- ・今まで中国で行われた日本語教育に関する研究会に参加したことはありませんでしたので、この形で行われているんだとびっくりした。興味深かったので、これからも参加したいと思います。
- ・今回の研修会を通して、新しい教学理念と教学方法を勉強しました。一番印象に残った活動といえば、やはりワークショップという活動だと思います。これから、自分の教学活動に実施しようと思います。
- ・はじめてこの研修会に参加できて、いろいろ勉強になりました。特に、スタンダードという言葉が初めて聞いて、学校に戻ってから、また。続いて深く吟味し、学生への教育の中、使うように努力したいと思います。
- ・日本語教師の仕事始めて今年二年目です。自分一人ではない、みんなと解決しようと思いました。みんなの工夫、アイデアを聞いて、気付いたことがたくさんありました。
- ・林洪先生の講義が一番印象に残った。具体的な教授法、教材分析の方法、教室活動の方法を指摘してくれて、これからの日本語教育に生かしていきたい。
- ・今後の課題として、実践教育と研究をうまく結びつけられるように頑張りたい。
- ・充実したスケジュール、多情報量が印象的でした。
- ・目標制定、Can-doのやりかたで、とても効果のある方法だと思いますので、帰ってから、実際の教育現場で使ってみたいと思います。
- ・今迄の教え方が全滅になっちゃうのではないかと困っていますが、1からやり直そうと決心します。Can-doや語言行動など新しい理念を頭に入れておき、学習者を主体にしましょう。
- ・参加させていただきましてありがとうございます、一日目の先生方のご講義と二日目のワークショップとCan-doのご紹介、それから三日目の林洪先生の授業改良の具体的例—頭に焼き付いて離れない、一番の感想は、いち早く夏休みを利用して、来学期のシラバスと授業目標、学習活動を考え、本当に学生たちに役に立つ新しい授業を捧げたい。
- ・国家スタンダードの設立と中身についての発表を聞くことができ、現在自分がやっていることの基準や方向性が確認できてよかったと思います。

・一番印象残ったのは、ワークショップです。協働作業するのは本当にいい方法です。そして、スタンダードという言葉がよく聞こえていて、これからの授業に役立つと思います。これからは日本語教育と地方のニーズに合わせて行う方法を探求すればいいと思います。

・ハードなスケジュールですが、いい勉強になりました。

以上